

(2) 話題提供 2 : 田辺第一小学校「シンサイミライ学校を受けた児童の様子について」

佐々木 三千代 (当時の田辺第一小学校 教諭)

田辺第一小学校は沿岸部に位置しておりまして、4階の教室からは綺麗な海がすぐそこに見えるというような学校です。私は、シンサイミライ学校で片田先生の授業を受けた当時の4年生を担任していた者です。これから、片田先生に教えていただいた子どもたちが、その授業で何を学び、どのように変わったのかという点について、お話しをさせていただきます。

1. 写真は、授業を受けた子たちが6年生になったときに、夏休みの奉仕作業で育友会の方々と一緒にかまどベンチをつくったときの様子です。かまどベンチを使って日赤奉仕団の方と一緒に炊き出し実習をおこないました。

2. 2011年3月11日の東日本大震災が発生したときの様子をお話したいと思います。震災当時、この子たちは小学校2年生でした。授業も終わってほとんどの子どもが下校していました。私は数名の子どもたちと一緒に教室に残っていたのですが、大きな揺れを感じたのを今でも覚えています。田辺市にも大津波警報が発表されました。下校していた子どもたちの様子を紹介します。友達と一緒に帰っていたAさんは、途中で近所のおじさんに「警報が出たから、はよ帰りよし」と言われて急いで帰ったそうです。地震が起きたときに家にいたBくんは、お母さんとの約束で「学校に避難する」ことになっていたもので、いったん家まで、学校に向かいました。しかし、途中で友達の家へ寄りかかって遊んでしまいました。その後、この子のお母さんは、「学校に子どもがいない」ということで、私たちと一緒に探し回りました。家にいたCさんは、警報の放送は聞こえましたが、何もせずにそのまま家で過ごしていたそうです。

3. 津波が来るかもしれないと思って、家の2階や屋上に上がった子もいましたが、ほとんどの児童は避難もせずに、普段通りの生活を送っていました。私たちが少し地域を見回っても、自転車に乗って、「いま習いごとの帰りだ」と言って帰っている子もいました。このときには何の知識もなかったというのが実情です。子どもたちの様子からわかったことは、まずは津波ということに出会ったことがないので津波の怖さを知りません。そして、逃げなければいけないとは、わかっているけれど“どこに逃げればいいのか”



佐々木 三千代先生

資料04-1

自分の命は自分で守る
シンサイミライ学校から学んだことへ

田辺第一小学校
佐々木 三千代

東日本大震災(2011年3月11日)のとき

- ・当時小学校2年生
- ・田辺市でも大津波警報が流れた。

Aさん...友達といっしょに家に帰っている途中だった。
途中でおじさんに「警報が出たからはよ帰りよし。」と言われて急いで帰った。

B君...地震発生時は家にいた。
お母さんとの約束では学校に避難することになっていた。一度家を出て学校に行こうとしたが、途中で友達の家へ寄りかかって遊んでいた。
お母さんはこのB君を探し回った。

Cさん...家にいた。
放送は聞こえたけれど、何もせずにそのまま遊んでいた。

○津波が来るかもしれないと思い、家の二階や屋上に上がった児童は数名。
○ほとんどの児童は避難しなかった。

↓

シンサイミライ学校以前の児童の実態

- ①津波の怖さを知らない。
- ②逃げなければいけないと分かっているけどどこに逃げればよいか分かっていない。
- ③津波が来ると分かったときの行動を家族で話し合っていない。

津波の怖さを知る その1

◆2012年5月 小学校4年生

①「いなむらの火」の紙芝居

がわかっていない。それから、津波が来るとわかったときの行動を家族できちんと話し合っていないので、“どうすればいいのかわからない”といった状況でした。

4.そこで、まずは、片田先生に来ていただく前に「津波の怖さを知る」ということで、稲村の火の紙芝居を見せて学習しました。

5.次に、東日本大震災のときの映像を見せました。子どもたちからは「津波が来て人々は焦っていた」「車で逃げても津波に襲われたら逃げられなくなると思った」「津波はものすごいスピードで来ていた」「木や家やいろいろな物が流されていて怖かった」「津波はものすごいスピードで勢いよく来るからとても怖いと思った」「もし家族が死んでしまって一人ぼっちになったらどうしようと思った」というような“津波が怖い”ということや、“津波に飲み込まれて自分が一人になってしまったらどうしよう”というように感想が多く出されました。

6.そのときの板書です。このあと、子どもたちと一緒に「津波から命を守るためにどうしたらいいだろう」ということについても考えました。子どもたちからは、「とにかく高くて丈夫で海から遠いところに逃げないとだめなんじゃないか」という意見がでたので、次に避難場所について考えました。

7.子どもたちからでた“近くにある高くて丈夫で海から遠いところ”は、資料にある5箇所くらいでした。学校の屋上の高さも実際に測ってみました。東日本大震災のような大きな津波が来たときに、「本当にここで大丈夫だろうか」、「安全だろうか」と不安に思い、より安全な避難場所も考えました。そしてでてきたのが、近所にあるオーシティという大型スーパーです。次に、本当にここまで避難できるかどうかを考えました。

8.学校からオーシティまでは約1.4kmです。どのくらいの時間がかかるのか実際に走って確かめてみました。資料の写真はそのときの様子です。保護者の方にも一緒に参加していただき、9つのグループにわかれて避難しました。遅いグループで20分、早いグループだと14分でした。これなら津波が来る前に避難できるのではないかと子どもたちも私も考えました。ここまでが、片田先生に来ていただく前に、当時の4年生が実践していたことです。そして、片田先生にシンサイミライの授業をしていただきました。

津波の怖さを知る その2

②東日本大震災の映像

<児童の感想>

- ・津波が来て人々はあせっていた。車で逃げても津波におそわれたら逃げられなくなると思った。
- ・津波はものすごいスピードで来ていました。木も家も船もいろいろな物が流されていてこわかった。
- ・津波はものすごいスピードで勢いよく来るからとてもこわいと思った。もし家族が死んでしまって独りぼっちになったらどうしようと思った。

5

防災授業の板書



6

避難場所を知る

◆とにかく高くて丈夫で海から遠い所

- ・紀陽銀行
- ・玉置病院
- ・NTT
- ・学校の屋上
- ・愛宕山

より安全な避難場所
↓
・オーシティ



7

学校からオーシティへの避難訓練

◆学校からオーシティまでは1.4kmくらい 保護者の方といっしょにグループで避難訓練



8

家で一人にいるときに地震が起こったら・・・

◆シンサイミライ学校以前

- ・家族に連絡して、帰ってくるまで待っておこう。
- ・家族が迎えに来てくれるまで待っておこう。
- ・帰ってくるのを待って、家の人といっしょに逃げよう。



片田先生は

みんなを助けに来た家の人はどうなるのだろう？
逃げ遅れたりしないのかな？

9

9.田辺第一小学校に来られた片田先生は、「家に一人にいるときに地震が起こったらどうする？」と子どもたちに尋ねられました。ほとんどの子どもたちは、「家族を待って避難する」という答えでした。片田先生は「みんなを助けにきたおうちの人は大丈夫なのかな？」「逃げ遅れたりしないのかな？」と子どもたちに投げかけ、「みんなが助かるためにはどうしたらいいのかな？」と尋ねられました。ビデオにもありましたが、聞かれた子どもたちは「どうしたらいいんだろう？」「おうちの人を迎えにきたら、おうちの人を危ないな」「でも僕一人じゃ逃げられないし、どうしたらいいんだろう？」というふうに本当に困った様子でした。

10.片田先生は「津波てんでんこ」の話もしてくださいました。ご存知の方も多いと思いますが、「津波てんでんこ」とは、三陸地方に伝わる津波から子孫を守るための知恵で、“地震があったら家族のことさえ気にせずてんでばらばらに自分の命を守るために一人ですぐに避難せよ”という教えだそうです。

11.その後、ビデオにもありましたように『約束の命』というアニメを見ました。ここで子どもたちは“家族がお互いに、一人ひとりがちゃんと逃げるということを信じあっていて、一人ひとり別々にちゃんと逃げるのが家族一人ひとりの命を守ることになる”ことを学びました。そして片田先生からの宿題として、おうちの人にそのことを一生懸命伝えたわけです。

12.左海さんの家の様子がビデオにありましたが、ほとんどの子どもたちが、おうちの人にその日の授業で学んだことと、“自分は一人でもちゃんと逃げる”ことを必死になって伝えました。次の日、学校へ来て子どもたちにその日の様子・感想を書いてもらったのがこの資料です。

13.ビデオにあった女の子の感想です。ほとんどの子どもたちが、このように「ちゃんと逃げるよ」というように意識が変わったようです。

14.シンサイミライ学校で片田先生に教えていただいたことにより、田辺第一小学校の子どもたち、保護者、職員は多くのことを学びました。一つ目は、「自分の命は自分で守る」ということです。津波のことをよく知り、避難場所や避難経路を考え、一人でも自分から避難することが大事だということです。二つ目は「家族の絆」です。みんなが助

「津波てんでんこ」



◆三陸地方に伝わる津波から子孫を守るための知恵

地震があったら、家族のことさえ気にせず、てんでばらばらに、自分の命を守るために、一人ですぐに避難せよ。

10

アニメ
「約束の命」



家族がお互いに一人ひとりがちゃんと逃げるということ信じ合っていて、一人ひとり別々に逃げるのが、家族一人ひとりの命を守ることになる。

11

授業後の感想

学習をする前は、津波が来ると分かってても、自分一人で逃げることは絶対にできないと思っていました。でも、学習した今では、自分一人でも逃げないと、自分も家族も死んでしまうかもしれないということが分かって、「自分で逃げよう」と思うようになりました。家族とも「私は一人でもちゃんと逃げるから、お母さん達も逃げな。」と約束しました。

学習をする前は、津波がくると分かったときに、どこに逃げればいいのか分からなかったけど、今は、安全な高い所に逃げようと思います。自分の命は自分で守るということを学んだので、できるようになりたいと思います。もし津波がきたときに、家族を待っていたら自分の命も家族の命も危ないので、自分ひとりでちゃんと逃げたいと思います。家族も安全な場所に逃げてくれると思います。

12

私は、片田先生から学んだことと、ちゃんと自分一人で避難することを家の人に伝えるとき、みんなばらばらになるかもしれないと考えたら、つい泣いてしまいました。でも、家の人と話をして、『津波が来たとき絶対に家にはもどらない。自分の命は自分で守れるように、みんなて逃げんじゃなくて自分一人で逃げる』ということ約束しました。いつ津波が来ても自分一人で逃げられるようにしたいです。



13

シンサイミライ学校で学んだこと

- **自分の命は自分で守る**
「津波のことを知り備えること」「高いところ高いところへ逃げる」「自分から進んで逃げる」が大切である。
- **家族の絆**
みんなが助かるためには家族が互いに信頼し合うことが大切である。
- **故郷田辺を愛する心**
津波がくるかもと恐れて生活するのではなく、愛する故郷田辺から犠牲者を出さないために自分達が今できる最善のことを考え実行していくことが大切である。

14

かるためには、家族が互いに信頼し合うことが大事だということ。三つ目は「ふるさと田辺を愛する心」です。津波が来るかもしれないと思って、恐れて生活するのではなく、この愛するふるさと田辺から犠牲者を出さないために、自分たちが今できる最善のことを考えて、実行していくことが大事だということ。15

15.片田先生によるシンサイミライ学校以降の取り組みとして、子どもたちは一人ひとり防災マップをつくりました。参観日に保護者の方と一緒にどこに逃げるのが安全かを考えたり、おうちの人との約束を決めたりしました。写真は参観日の様子です。決めたことをみんなの前で発表しました。

16.子どもたちがつくった防災マップの一部分です。自分の家、放課後よくいる場所、避難経路、家の人との約束、避難にかかる時間などを書き込んでいます。避難経路については、わかりやすくするために色わけをしました。

17.シンサイミライ学校で片田先生に教えてもらったことで、それまでとは違う変化が子どもたちにも保護者にもあらわれています。まず、家族で地震や津波について話し合う機会が多くなり、防災グッズの点検や避難経路の確認をしたというご家庭が増えました。「子どもたちがつくった防災マップを使って避難してみた」という声も保護者から聞かれました。そして、保護者の方の意識も変わりました。

「子どもだけで避難させるのは心配だし、本当に一人で大丈夫なのか」というように不安だったのが、片田先生の授業を受けたあとは、「自分の命は自分で守る。自分一人でもちゃんと逃げる」という子どもを信じてみよう。そして、「自分もちゃんと避難しよう」というように変わりました。ある保護者の感想を紹介させていただきます。

「最初に片田先生に『子どもだけでも自分一人でも逃げろ』と教えていただいたとき、目からうろこが落ちました。そこから毎回、『自分の命は自分で守る』『一人でも逃げる』ことを教えていただき、子どもたちにそういう気持ちが芽生えたことは大きな進歩でした。親自身も心配や不安が尽きない中で、子どもを信じてみようという希望が持てるようになりました。実際の地震、津波を考えると被害の大きさに心が痛み、足がすくみます。子ども一人ならなおさらです。でも、そんなときには地域の人々、近くにいる人たちが声をかけてくれたり、導いてくれたりするだろうとい

「シンサイミライ学校」以降の防災学習

防災マップ作り 参観日の授業で、地区ごとに集まって、どこに逃げるのが安全か保護者の方と話し合いました。



話し合ったことをみんなの前で発表

防災マップ



- ・自分の家と放課後よくいる場所
- ・避難経路(色分け)
- ・家の人との約束
- ・避難にかかる時間

「シンサイミライ学校」以降 その1

- ①家庭では・・・
- ・地震や津波について話す機会が増えた。
 - ・防災グッズの点検や避難経路の確認をした。
 - ・作った防災マップを使って避難訓練をした。
- ②保護者は・・・
- 子どもだけでは心配・不安
- ↓
- 「自分の命は自分で守る。自分ひとりでも逃げる」という子どもを信じよう。

「シンサイミライ学校」以降 その2

- ③子どもは・・・
- <ある日の地震>
- ・学校の近くにいた児童は
 - ・家にいた児童は
 - ・帰る途中だった児童は
- <意識の変化>
- ・子どもから大人に伝えていかなければならない。
 - ・いざという時は、私達高学年が低学年を連れて逃げないといけない。
 - ・家族って大切。

今、田辺第一小学校では

「自分の命は自分で守る」を合言葉に

- ①津波について知る。
- ②防災マップ作り
 - ・避難場所
 - ・避難経路
 - ・時間
 - ・家の人との約束
 - ・危険な場所
- ③避難訓練
- ④保護者への啓発

『犠牲者ゼロの田辺』を目指して

う希望を胸に、これからは『自分の命は自分で守る』『一人でも逃げる』ことを子どもと一緒に実践していきたいと思います。避難場所や経路についてはまだまだ不安が残りますが、最善の方法を家族で考えていきたいと思います。」という感想をいただきました。多くの保護者の方から、「本当に子どもを信じてみよう」、「実際に私もそういうふう実践します。いろんなことを学べて良かったです。」とおっしゃっていただきました。

- 18.子どもたちもちろん変わりました。シンサイミライ学校の授業があつてからしばらくした日に地震が発生したことがありました。私は教室にいましたが、子どもたちは教室に戻ってきました。「どうしたの？」と聞くと、「先生、地震があつたやろ？津波来るかもしれないと思って戻ってきて、屋上へ逃げようと思ったんだ」と言っていました。私はそんな意識が全然ありませんでしたが、子どもたちは教えられたことはすぐに頭の中に入るんだなとビックリしたのを覚えています。学校の近くや運動場にいた子どもたちは、教室に戻ってきて屋上に逃げようと思つたり、実際に逃げた子も多かったです。地震が発生したときに帰る途中だった子どもたちは、近くに高い所がないか探したと聞きました。地震から津波を予想した子どもが多くて、私はびっくりしました。明らかに子どもたちの意識が変わりました。自分のことで精一杯だった子どもたちが、「この防災の学習を通して学んだことを、大人にも伝えていかなければならない」と思うようになり、「いざというときには私たち高学年が低学年の子どもたちを連れて逃げなければならない」と思うようになりました。もちろん全員ではありませんが、そういう意識が高まったのは事実です。そして何より家族を思う心が育ちました。
- 19.シンサイミライ学校で片田先生に授業をしていただいてから 3 年が経ちましたが、今も田辺第一小学校では、「自分の命は自分で守る」を合い言葉に、津波について知り、一人ひとりの防災マップを作っています。地震の避難訓練はもちろんですが、学年ごとにオーシティーまで走ることもしています。そして、保護者の方々にも地震や津波について知ってほしいと思い、参観日等を使って、防災の授業をしています。「今まで知らなかったことを、子どもたちと一緒に学べて、防災について考える良い機会になった」というご意見をいただいています。田辺市では、地震や津波だけではなく、地震や津波に限らず、“災害による犠牲者ゼロの田辺”を目指して、自分の命は自分で守れる子どもたちにするために、保護者の方々や地域の皆さんとともに、これからも防災学習に取り組んでいきたいと思っています。